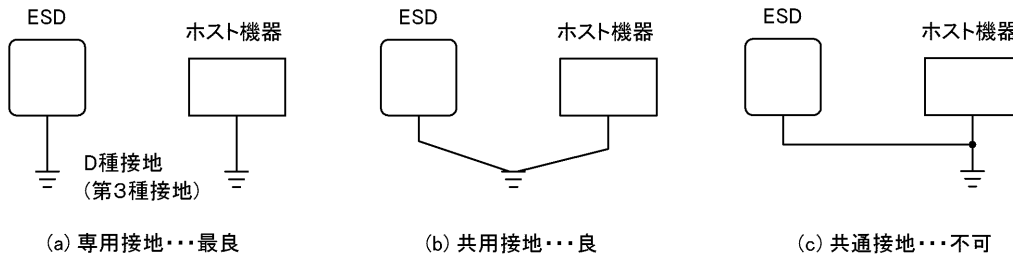


〈接地方法〉

接地はできるだけ専用接地 (a) として下さい。専用接地が取れない時は、(b) のように接地極で接続する共用接地として下さい。

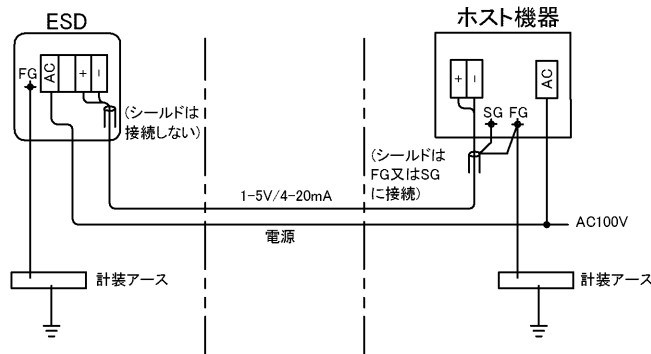


〈推奨する外部アースの配線方法〉

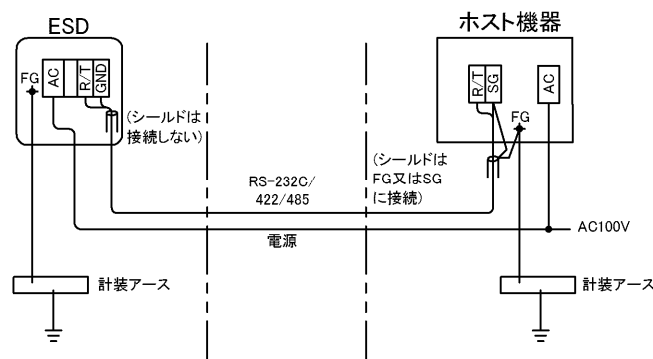
○ESD 表示器とホスト側の電源が同一ラインで取れる場合

ESD の電源及びアースはホスト機器側より引いて下さい。
 シールドはホスト機器側で取り、1 点アースとし、ESD 側は接続しないで下さい。
 ESD 側、ホスト機器側ともに FG は計装アースとし、動力とは切り離して下さい。

・ 1-5V、4-20mA の時



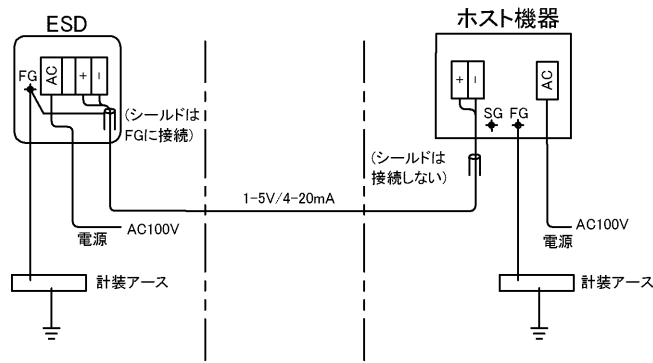
・ RS-232C/422/485 の時



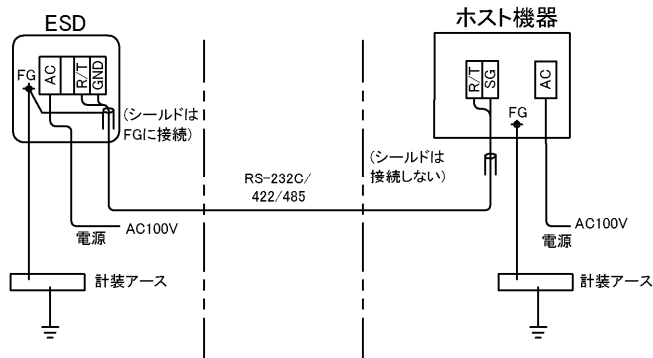
○ESD 表示器とホスト側の電源が同一ラインで取れない場合

ESD の電源及びアースは計装用電源より引いて下さい。
 ホスト機器側の電源は動力とは切り離れた計装ラインより取って下さい。
 シールドは ESD 側で取り、ホスト機器側は接続しないで下さい。
 ESD 側、ホスト機器側ともに FG は計装アースとし、動力とは切り離して下さい。

- 1-5V、4-20mA の時



- RS-232C/422/485 の時



〈ESD 内部アースラインの接続状態〉

ご使用環境によっては、アースの取り方によりノイズの影響を受ける場合があります。出荷時は接続状態(1) [FG と SG が結合された状態] になっておりますが、ノイズの影響が生じている場合は、接続状態(2) [FG と SG が分離された状態] をお試しください。

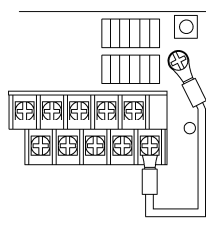
• 接続状態(1) [FG-SG 結合]

FG 側と SG 側を短絡線で結合する。

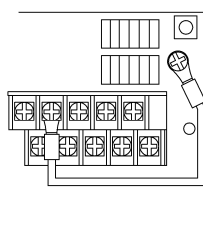
FG 側： 基板右上の基板固定ネジを利用する。

SG 側： ①端子台上「GND」を利用する。(標準タイプ)

②端子台上「A4-」を利用する。(通信タイプ)



①標準タイプ



②通信タイプ

• 接続状態(2) [FG-SG 分離]

上記の短絡線を撤去する。

注) 推奨する配線方法が、すべての環境において最善とは限りません。推奨する配線方法においてノイズの影響が生じる場合は、シールドの接続先を FG や SG に変えたり、シールドの接続を ESD 側や Host 側に変えたり、ESD 内の FG-SG の結合、分離を変える等、いろいろな組み合わせをお試し下さい。

<表示文字の説明>

本器を使用時に文字が表示されることがあります。その文字の意味を説明します。

表示文字	説明
一番右の桁に「-」	入力モード、スケーリング値の設定がされていない状態です。 入力モード、スケーリング値の設定を行って下さい。
「U.L.」	アンダーレベルを意味します。 入力が下限(1V または 4mA)未満の時に表示されます。
「O.L.」	オーバーレベルを意味します。 入力が上限(5V または 20mA)を超えた時に表示されます。